千葉経済大学短期大学部
研究紀要　第12号　51～61（2016）
授業研究

学生同士の育ち合いを支える

―「手作りおもちゃの遊び場」に向けた実践的授業の試み ―

小倉　定枝

Practice for Making play place of the hand-making toys : with college students

Sadae OGURA

1. はじめに

2012年度より本学こども学科１年次生の「保育実習演習」（前期）及び「保育実習指導Ⅰ」（後期）を担当している。両科目では学生の人間性を高めていくことを本学独自の目的としており、保育実習関連の内容について担当各教員の創意工夫を活かしてカリキュラムを作成している。その目的に応じて、25名程度の少人数で行われている。筆者は、この両科目を通年の連続した科目と捉え、長期的な視野で学生を育てる試みを行ってきた。特に、後期（11月）に開催される「学園祭（とどろき祭)」において、「手作りおもちゃの遊び場」を開催し学生と地域の子ども及びその保護者が有機的に繋がる場作りを目的とした授業を試みた。本研究では、主にその目的の詳細、カリキュラムと授業の内容を提示する。

２．受講学生の背景と本取組の目的

2006年度より「大学や短大、専門学校の授業は１科目につき15回以上授業を行う。15回のうち、10回以上出席した学生にのみ単位を与える。」ことが文部科学省及び厚生労働省によって示されている。特に、保育士関連科目に関しては休講の場合必ず補講を行う必要があり、学生は以前に比して多忙な学生生活を余儀なくされている。また、本学では、１年次２月、３月の春季休業期間に保育実習ＩＡ（保育所実習）及び保育実習ＩＢ（施設実習）を２週間ずつ行うが、学生は後期の試験終了後すぐに実習に向かうことになる。学生にとって保育実習は、社会に出る初めての機会であり、時間的な余裕がないことも相まって後期になると緊張感が次第に高まっている様子であった。10月、11月には「進路を変更したい」「保育実習に行くのが憂鬱であるので、辞めたい」などの相談に来る学生がおり、授業においても暗い表情の学生が気になっていた。そのような状況において「保育現場において子どもと関わる楽しさを伝えたい」という教員としての思いから、本取組はスタートした。筆者の幼稚園教諭としての経験からは、保育現場は職員同士の人間関係に厳しさもあるが、やはり「自分が創意工夫したことがダイレクトに子どもに伝わる喜び」「子どもが喜ぶことを自身の喜びに感じられる楽しさ」等不安を超えた喜び、やりがいがあり、それが保育という仕事の醍醐味であると考えられる。入学した当初は、「子どもの可愛さ」に惹かれていたはずの学生が、学びを進めるうちに当初の思いよりも自分に保育という仕事ができるのかという「不安」の方が増大してしまっていると感じることが多かった。その為、①「子どもが可愛い」という気持ちを思い起こし、「子どもと関わる喜び」を感じて希望を礎に学生生活を送れるようにすることが本取組の最大の目的である。

また、クラス単位の座学が中心となる学生生活において、学生同士が普段の固定グループではない友人と交流しながら一つの目的に向かって取り組む機会を設け、人間関係の流動化を図る必要があると考えた。固定グループの人間関係だけでは、多様性の受容や柔軟な発想に結びつかず排他的になることも危惧される。②学生が多様な他者との関係の中で、様々な考えに触れて自己を調整して協力し合い、クラス全体の雰囲気を良くしていくことも目的の一つとした。

さらに、③おもちゃの選択眼を養う、「保育に必要な態度を養う」などの保育技術の向上も目的として挙げられる。子どもにダイレクトに影響を与えるので、保育者の生活者としての態度も非常に重要である。その為、例えば「使った物は最後まで責任を持って片付ける」「ごみはきちんと捨てる」「借りたものはお礼を言って返す」など④保育実習を行う学生として最低限の態度を学ぶことも目的とした。その他、こども学科を有する短期大学である為、学園祭に訪れた子どもと保護者が憩える場が必要であると考えた。学生の学びという学生本位の目的のみならず、微力ながら⑤学生と地域の子ども、保護者が有機的に繋がる場作りを通して地域の子育てに貢献することも目的として挙げられる。

３．授業のカリキュラム

①＜前期＞保育実習演習

前期科目の「保育実習演習」には、幼稚園観察実習、保育所実習ガイダンス等学科全体の共通項目が数コマ発生するため、その間を縫ってのカリキュラム編成となった。「保育実習演習」では、まず、学生自身がおもちゃで遊んだ体験を振り返り子どもの思いに迫った上で、「子どもにとっておもちゃは何故必要なのか」「おもちゃが子どもに与える影響」などをテーマに保育の場におけるおもちゃの意義を探った。高山（2014）[1]は、環境構成の４つの技術の一つとして「玩具や生活用品を選択する技術P39」を挙げ、「乳幼児の発達に適した玩具や生活用品を選択し、それを目の前の子どもの発達段階に応じて体系的に提供を行うことができる技術です。」と定義している。さらに高山は「子どもに合わせて適切な素材や道具を準備するためには、遊びの素材や道具を知っていることが不可欠です。」と述べる。つまり、おもちゃの素材の特性や様々な種類を知っていて初めて良いおもちゃを子どもたちに提供できるということである。その為、ゴールデンウイーク中の課題として「東京おもちゃ美術館への見学レポート」を組み込んだ。1984年に東京都の中野にオープンし、2008年に旧四谷第四小学校の校舎を改装して移転した東京おもちゃ美術館には、世界の数万点のおもちゃを有しており「見る・作る・借りて遊ぶ」という３つの機能を併せ持っている。東京おもちゃ美術館では、「おもちゃ学芸員」の養成も行っており、「おもちゃ学芸員」がボランティアスタッフとして常駐している。学生がこのような文化的な施設で「良いおもちゃ」とされているおもちゃを見る、触れることで、その選択眼を養う一助になるのではないかと考えた。課題の提示に際しては、学生自身がおもちゃで遊ぶことによってその面白さを体験し、自覚化すること、また子どもが遊んでいる様子を多様な視点から捉えられるようにすることを意識した＜表１＞。おもちゃ美術館の課題については、課題提出日に各自の体験と感想を発表し合った。

＜表１＞　＜GWの課題＞

「東京おもちゃ美術館」を見学し、以下の点についてレポートを作成しなさい。レポート用紙A4判２枚以上にまとめること。

① あなたが「面白いな」と思ったおもちゃは、どのコーナーにあるどんなおもちゃでしたか。なぜそのおもちゃが面白いと思いましたか。

② 子どもがおもちゃで遊んでいる様子を見てみましょう。
子どもに人気のあるおもちゃはどんなおもちゃでしたか。
そのおもちゃのどんなところを面白がって遊んでいましたか。
また、子どもによって遊び方が違うかどうかも見てみましょう。
遊び方が違った場合は、どんな風に違ったか書いてみましょう。

③ おもちゃ美術館に行ってあなたはどんな感想を持ちましたか。あなたが上記以外で学んだことを書きましょう。

その後、第11回目からは、子どもの発達をグループごとに調べて発表し合うという授業を行った。ここでは、文献を元に調べた情報を整理することを大切にした。昨今は、スマートフォンからWEBで簡単に様々な情報を得ることができる。しかし、WEBの情報は玉石混合であり、出典が明示されていない場合も多い。文献を元に著者が明示されている情報を得る、資料を読む過程で得られる情報も大切にする、資料から必要な情報を収集する力を養う為などを目指して文献を集めることを提示した。最後に、各自が「乳幼児向けのおもちゃを作る」ことを夏休みの課題とした。初年度から学生の作るおもちゃが小さすぎる、素材が不適切（壊れ

やすい、乳児の誤飲の危険、先端が尖っている）等の傾向が見られたので、乳児でも安全に遊べて壊れにくいものを作るよう心がける、卒業後も自分の財産にできるように心を込めて作る、子どもが遊ぶ様子をイメージして作るなどの注意点を示した。前期では「おもちゃ作り」に向けて計５回の授業を行った。

<表２>　2015年度【前期】保育実習演習のカリキュラム

回	目的	内容	方法
1	教育・保育実習記録集「ひろはら」の配布と学び【共通】		
2	保育実習ガイダンス【共通】		
3	自身の子ども時代を振り返り、おもちゃとの体験を想起する。	子どもの頃好きだったおもちゃ紹介	子どもの頃好きだったおもちゃを思い出し、「どのおもちゃのどこが好きだったか」などを記録し、発表し合う＊GWの課題として「おもちゃ美術館」の見学とレポートを提示する。<表１>
4	保育の場におけるおもちゃについて、その意味を考える。	保育の場におもちゃは必要か、またそれは何故か考える。	保育の場におもちゃは必要か、またそれは何故かそれぞれに考えて書き、発表し合う。
5	「おもちゃ美術館」で感じたこと学んだことについて他人の意見を知る。自身の発表を通して発表に慣れる。	おもちゃ美術館のレポートを発表し合う。	全員が、「おもちゃ美術館のレポート」を発表する。
6	幼稚園観察実習事前指導【共通】　＊服装、実習での諸注意を講義		
7	幼稚園観察実習事前指導【共通】　＊実習記録の書き方を講義		
8	幼稚園観察実習【共通】		
9	幼稚園観察実習事後指導【共通】　＊実習記録を元に、全員発表を行う		
10	夏期体験実習のガイダンス【共通】		
11 12	・発達について資料を基に調べることを通して、資料から必要な情報を抽出する力を養う。 ・同じ興味を持った友人と協力し合う	グループに分かれて、０～６歳の発達について調べ、レジュメを作成する。	グループは年齢毎の特徴の概要を説明した上で、何歳児を調べたいかという希望によって分ける。事前に、資料を文献の資料を持参する旨を話し、グループごとに「社会性」「情緒」「身体（運動機能）」「知的（認識・言葉）」発達及び「好きな遊び」について年齢毎の特徴を調べる。 ＊０歳児、１歳児、２歳児、３歳児、４歳児、５歳児の各年齢毎に４～５人のグループで行う。
13	・発表の練習 ・他者の意見を聞く ・乳幼児の発達の概要を知る	発達について調べたことをグループごとに発表する。	作成したレジュメを人数分印刷し、レジュメをもとにグループごとに発表し合う。
14	・夏期休暇中の課題について提示する 課題①　乳幼児の為のおもちゃ製作 課題②　おもちゃ作りに関するレポート作成（作った理由、工夫した点、感想） ・手紙の書き方の指導【共通】		
15	保育現場でのマナー講座【共通】		

＊【共通】は全クラス共通カリキュラムを指す

②＜後期＞保育実習指導Ⅰ～学園祭まで～

A．手作りおもちゃの発表会

後期の初回を夏期休業中の「おもちゃ作り」の課題提出日とし、２回目に「手作りおもちゃの発表会」を行った。手作りおもちゃの発表会では、自分の作成したおもちゃをクラスの他のメンバーに紹介して良い点などをアピールし合った。発表の後、全員のおもちゃを展示し各所を回っておもちゃに実際に触れる機会を設けた。

B．グループ製作

３回目以降は、グループ製作を行った。学園祭に来場する子ども達を想定し、「普段、家では遊べないような手作りおもちゃ」を製作するよう伝えた。グループ決めについては、2012、2013年度は前期に発達表を作成したグループで調べた年齢の子ども向けのおもちゃを作るように伝えたが、2014年度からはくじ引きでグループを作ることにした。2012年度、2013年度では指定された年齢向けのおもちゃという制約に縛られて良いアイデアが生まれない、各自の希望で調べる年齢を選んだ為、普段から親密なメンバーであることが多い等の理由で、３年目からはくじ引きによる無作為抽出のメンバーで相互交流を深めることとした。なるべく大きくて壊れにくいものを作るなどの注意点を示しながら各グループの自由な発想を期待した。

C．広報

なるべく多くの地域の子ども達に来場して頂けるよう、有志の学生にチラシの作成を依頼し、全学生に一人一枚のポスター製作の課題を提示した。

＜表３＞　2015年度【後期】保育実習指導Ⅰのカリキュラム～学園祭終了後まで～

回	目的	内容	方法
1	夏期体験実習報告会【共通】＊手作りおもちゃとレポートの提出		
2	・製作した物を発表して自己表現を磨く ・他者の発表を聞く、知る ・作品に触れて遊び他者の創意工夫を知る	手作りおもちゃの発表会	・全員、自分の製作したおもちゃを紹介し、工夫した点などを発表する。 ・発表の後、おもちゃを全員分並べて各箇所を回って作品を見合い、実際に遊んでみる。
3	・グループでの作成準備	①グループ製作の準備 ・グループの決定と作製計画作成 ②チラシ作製の担当決定	くじ引きで６～７人の４グループに分かれ、大型おもちゃの作製案を練る。
4～7	・無作為抽出メンバーによって自己を調整し合いながら他者と協力し合う ・目的を持って製作に取り組む ・クラス内での交流を深める ・製作過程で物の扱いや素材を知る ・外部機関への訪問で公的な場を意識して関わる。	①グループ製作 ②課題の提示<４回> ＜課題＞とどろき祭に向けてのポスター作製を１人１枚行う ③周辺保育施設へポスターとチラシを持参し掲示の依頼を行う＜６回目＞	各グループ毎に材料を持ち寄り、グループ製作を行う。随所でアドバイスを行いながら、各グループの創意工夫に任せる。 ③指定された周辺保育施設の中からグループ毎に園を決めてチラシとポスターを持参し依頼する。
学園祭準備	・乳幼児向けの保育室の環境構成を知る、工夫する ・協力し合って準備を進める ・学園祭への期待 ・開催に向けての責任	・全体会場を設定の上、各グループ毎におもちゃを仕上げる ・遊び場の環境設定 ・室内の装飾	・午前に集合し、全員で会場設定を行う。 ・環境設定に関しては、学生と相談の上、指示も行う。

学園祭【2日間】		・子どもとの遊び ・会場の運営 ・後片付け	・担当時間帯を学生自身で決め、その時間に来るように予め指示する。 ・受付と遊び担当に分かれて自由に子どもと遊びながら過ごす。
7	・当日の振り返りと反省 ・和やかな雰囲気の中、学生同士の親睦を深める	とどろき祭の反省会	・菓子とお茶を飲食しながら、当日担当した時間帯のグループに分かれ、当日を振り返る。 ・当日のアンケートの集計を行う。 ・アンケート結果と反省点などを発表し合う。＜課題＞「とどろき祭を振り返って」の提示
8	・協力を頂いた方への感謝と配慮 ・片付けまで責任を持つ	ポスターとチラシ協力園へのお礼状の作成と最終的な片付け	・自分たちが依頼した園にグループ毎にお礼状を作成して投函する。 ・グループ毎に作成に使った用具を整えたり、余った素材を整理する。

４．実践を振り返る

上記カリキュラムで示した内容で、授業実践を行った。学生の記述した感想及び、筆者のエピソードから実践を振り返り、その効果と反省点などを記す。

Ⅰ．前期＜おもちゃ製作に至るまで＞

①子どもの頃好きだったおもちゃでの遊びを振り返り、発表する

当日の学生の感想の一部を抽出すると以下のような内容であった。

・みんないろいろなおもちゃで遊んでいて、**それを聞くのも楽しかった**です。**「あ～、わかる！」と共感**するものがたくさんあって、はむすたあのお家はわたしの家にもあって、遊んでいたのを思い出しました。

・色々思い出せて**楽しかったし、懐かしい気持ち**になりました！

・自分が小さい頃何で遊んでいたか、よく思い出せなかったけど、**他の人の発表を聞くと**自分もやったなーとか持ってた！！とか色々なことを思い出しました。

・**自分たちと同じように**おもちゃを好きな子がいると思うので、振り返って気持ちを理解していきたいです。

・**子どもがおもちゃで遊ぶという行動には、ただ「面白いから」とかだけではなく、好奇心や安心感、憧れの気持ちなどがあるんだということを学べました。**

・そういえば自分はこんなことをしていたな、こんなころことが好きだったのだななど**自分のことを詳しく知ることができました。**

・今日の授業で、小さい頃何で遊んでいたか、似たようなことをしていたんだなと思った。でも、**感じ方はそれぞれだし、その人なりの感じや思い出があるんだ**と思った。逆にそんなもので遊んでいたんだという驚きと発見もあって楽しかった。

・子どもにとって**遊びはとても大切**だということがわかりました。

・今の**小さい子はどんなもので遊んでいるのか興味**を持った。

・おもちゃは子どもにとって重要なもので、自分を表現したり、周りとの関わりを覚えたりするということがわかりました。よいおもちゃを与えてあげられるように、**たくさんのおもちゃを知りたい**と思います。

＜2014年度　感想から＞

学生の感想から、①自己の振り返りを通した自己の再認識②他者の話に耳を傾け共感する③他者が自分と異なる成長過程を経ていることへの気付き④自身の子ども時代を振り返ることによる乳幼児の気持ちの理解⑤遊びの意義の発見⑥保育者として自身が学ぶ意欲へと繋がっていることが読み取れる。

②おもちゃ美術館の見学

レポートはイラストや写真を用いて各々が独自性を出しているものが多く、楽しんで作成されていること

が窺えた。感想の内容には、以下のようなものがあり、実際の展示や子どもが遊んでいる姿から①**子どもの目線への気づき**②**子どもの多様な遊びの可能性を見出す視点**③**保育者としての自覚（責任）の芽生え**④**おもちゃの種類や素材への気づき**⑤**子どもとその保護者に対して居心地の良い空間を提供するための配慮の視点**⑥**おもちゃ学芸員の対応からの学び**⑦**自分たちのおもちゃの遊び場への期待**などが得られていることが窺える。

・私もたくさんのおもちゃと出会い楽しむことができたので、**保育者という立場で子ども達を支援できるようになりたい**と思いました。

・おもちゃは子どもと大人を繋ぐ大切な役割を持ち、**それを使って遊ぶことによりどんな風に遊ぶか等自分で考えながら遊ぶので想像力や思考力が育つ**と思いました。

・**こんなおもちゃもあるんだなと思うことも多くて**、今でもよくみるけん玉、コマなどもあってもっと色々なおもちゃに触れたいなって思いました。おもちゃの中にもいいものと悪いものがあるんだなって思いました。

・**子どもは一緒にいる大人の表情をじっくりとみていることに気が付きました**。私が笑えば子どもも笑う。しかし、私が笑わなければ子どもも笑わない・・・。

・赤ちゃんの広場で実際に遊んでいるところをみて改めて思ったのが、**小さい子どもは何でも口に入れてしまうんだ**ということです。**子どもから目を離すことがどれほど危険かわかりました。**

・あかちゃん木育広場がやはり一番楽しかったです。あかちゃんは反応は正直すぎるくらい正直なので、面白いもの、おもしろくないものを表情で教えてくれます。

・**東京おもちゃ美術館の方はおもちゃの遊び方への先入観がほとんどなく**、一つのおもちゃでたくさんの遊び方を紹介していました。

・木でできたボールプールやアスレチックは**深呼吸するとまるで森の中にでもいるような感覚**になりました。**おもちゃをみると主に木でつくられており**、ぶつけても痛くないように角を丸くしてあって、**子どもにあった優しいおもちゃや遊びがたくさんあるんだな、考えられているんだなと思いました。**

・滑り台とトンネルはとても人気があり、寝転がりながらすべっている子もいれば、後ろ向きで滑っている子もいました。面白いなと思ったのは、お人形さんを滑らせていた子がいたことです。

・美術館のおもちゃは木製のものが多く、おもちゃで遊ぶことにより自然のものと触れ合うことができて良いと思いました。また、木のにおいは人の心を穏やかにしてくれ、**一緒に来ている保護者もくつろぎながら子どもと遊ぶことができ、とても良い空間であると思います。**

・子ども達が怪我をしないために、テーブルも丸く作られていたり、ふわふわしている素材を使っていたり、子どもたちを守るために徹底されていました。

・館内には多くのおもちゃ学芸員の方がいましたが、彼らの役割は子どもとずっと一緒に遊ぶのではなくて、あくまでも遊びの提案なのだと思います。（中略）**一緒に遊んでいるだけのように見えても、実は子どもに大きな発見を与えるすごい方なのだと思いました。**

・保育者を目指す上で**今回の経験はとても勉強になりました**。機会があったらまた行きたいです。

＜2015年度レポートより＞

Ⅱ．後期

①手作りおもちゃの発表会

手作りおもちゃの発表会では、夏季休業中の課題で作製したおもちゃを一人ずつ発表してそのアピールポイント、工夫した点などを説明した。学生が作製したおもちゃは、布絵本、魚釣り、立体パズル、コマ、トントン相撲、ぬいぐるみ、缶ポックリ、布ボール、絵合わせカード、不思議ボックス等々様々な種類があった。少し修正が必要なおもちゃもあれば、時間をかけて作製したと思われる秀逸なおもちゃもあった。

その後、おもちゃを見て触れて遊ぶことで以下のような感想が得られ、それぞれの作品が刺激になり、クラスの他の学生の努力を認める視点に繋がっていることが窺える。

・今日のみんなのおもちゃを見て、**クオリティーの高さに驚きました**。それぞれのおもちゃは様々な工夫がしてあるので、みていてとても楽しかったです。一日で作れるものもあれば、１週間位かかりそうなものもあって根性がいるなと思いました。

・本当に**皆アイデアも面白く工夫を凝らしていて、クオリテ**

ィも高いので、感動した。布絵本の人が何人かいたが、それぞれ個性が出ていてどれもみんなの子ども達への狙いが明確で良かった。
・５月におもちゃ美術館に行ったことは、今回の課題にとても活かされ自分が作ったものに自信をもつことができた。
・私は不器用なので今回のおもちゃ作りを諦めがちで作ってしまったので今日の発表を聞いて、もっと自分も頑張れば良かったと思いました。
・私も今度はもっとすごいおもちゃを作りたいです。おもちゃもたくさん種類があるので参考にしたいと思います。
・「○○」はクオリティーが高くて本当に努力して子どもたちのために作ったことが伝わってきました。

＜手作りおもちゃの発表会＞

自分の作品の紹介

作製したおもちゃをお互いに見合う

＜学生の作製したおもちゃ＞

＜四季のえあわせ（布絵本）＞

＜はらぺこあおむしの糸通し＞

②テーマの設定

初年度は「とどろき祭」における遊び場の出店名は「おもちゃの展示会」として教員が命名したが、次年度から学生の意欲を高める為、学生達が自分たちでアイデアを出して命名するよう伝えた。2015年度は学生達が主体的に命名して届出を出すなど意欲的に取り組む姿が見られた。

年度	2012	2013	2014	2015
テーマ	おもちゃの展示会	トイランド	おもちゃのもり	はっけん！おもちゃタウン

③グループ製作

グループ製作は、作成案を見てアドバイスを行うなどしたが基本的には各グループの創意工夫に任せた。2015年度は、全グループが大型制作に取り組んだが、グループによっては簡単な製作になってしまったグループもあった。手の空いたグループには装飾やポスター作成などを依頼し、それぞれがとどろき祭本番に向けて取り組んだ。製作の過程では、グループ内の意見の不一致など人間関係でぶつかる様子も見られたが、時々声をかけながら様子を見た。

2012年度、2013年度は学園祭まで通常通りのコマ数で授業内に準備を行ったが、グループ製作が間に合わないので放課後や空き時間に自主的に取り組む姿が見られた。時間の不足が学生の負担感に繋がっていたよう

である。その為、2013年度からとどろき祭前の授業コマ数を２コマ増やして実施した。

空き時間にもグループで製作に取り組んだり、授業開始前に準備をするために早めに来たりなど意欲的に取り組む学生が見られ意欲が感じられた。2015年度は「はっけん！おもちゃタウン」というテーマを意識したグループ製作となりクラス全体で意欲的に取り組んでいた。

【表４】

年度	グループ製作した作品
2012	すべり台、布の大型積み木、大型の玉転がし、乳児用動物のぬいぐるみ
2013	動物の玉入れ、魚釣り、乳児用のオモチャ（ひもを引っ張るもの）
2014	大きなお家、「わくわくストラックアウト」（ボール当てゲーム）、ボーリング、乳児用大型おもちゃ（フェルト製作）
2015	すべり台、迷路、新幹線と車、お家

牛乳パックのすべり台（2012年度）

迷路、お家、乗り物（2015年度）

④広報

ポスターとチラシの作成では、普段の授業では垣間見られない学生の特技に気が付き、関心したり新たな学生の一面を知ることに繋がった。ポスターとチラシは予め依頼しておいた地域の保育所、幼稚園（７ヶ所）に学生に持参するよう伝えた。学生は緊張しながらも、社会的な場に快く受け入れられる体験をし、自信につながった様子であった。

学生の作成したポスター（2015年度）

学生の作成したチラシ（2015年度）

⑤当日

当日は時間を区切って時間担当制とした。自分の担当の時間に来て、子どもたちと楽しげに遊ぶ様子が見られた。中には、自分の担当時間以外にも様子を見に来場した学生がいた。概ね、学生は楽しそうに参加していたが、初年度、次年度には２日目の片付けは全員参加であることに嫌悪感を示す学生がいた。学園祭までの負担感が嫌悪感に繋がったようである。「学園祭の代休はあるのですか？」と言った声も挙がり、先の見えない負担感が「させられている」という意識に繋がったようである。３年目からは、講義を前倒しにする代わりに終了後に休講日がある旨などの見通しを伝えて工夫したところ、学生の負担感が少々和らいだようである。2014年度は２日目の当番時間を減らして１日目を増やし、２日目に来場した学生のみ片付けをするなどしたが、2015年度は再び全員片付けを行うこととした。2015年度は片付けにも全員が意欲的に参加しクラス全員の役割意識が高かった。

＜当日の様子＞

2012年度

ヤッシー登場により盛り上がる会場（2015年度）

⑥来場者

当日の来場者数は以下の表の通りであった。

【表５】来場者数　＜延べ人数（名）＞

年度	2012	2013	2014	2015	合計
大人	142	96	105	180	523
子ども	94	87	104	130	415
計	236	183	209	310	938

来場者数は２年目には少々減ったものの、2015年度は310名に達した。乳幼児連れの保護者を始め、高校生、保育関係者等が訪れ会場は常に賑わっていた。中でも、卒業生が子連れで訪れ、憩いの場となっていたことは大変嬉しいことであった。３年連続子連れで訪れる卒業生グループもおり、学生達も未来の自分の姿に重ねている様子で交流を持つことができた。

また、2012年から４年連続毎年参加のご家族もあり、励みになった。本企画内に「おむつ替えコーナー」「授乳コーナー」を用意したので、おむつ替えや授乳の目的で訪れる保護者もいた。

学園祭内での認知度も次第に高まり、学園祭執行部の配慮により2014年には「チーバくん」、2015年には「ヤッシー（乳幼児向けの歌のお兄さん）」が訪れ会場が賑わいだ。

アンケートを配布し「気に入ったおもちゃ」「学生の対応」「何で知ったか」「感想」などの記入を依頼した。その一部を表に記した。

＜アンケートの感想欄のコメント＞

・すごく楽しかった！！何か月も前から準備をしていただけのことはあった。

・また子どもと来ます。フェルトのおもちゃを家でも作ってみたいです。

・子どもと遊んでくださったことがとても嬉しかったです。

・とても良かったです。子どもを預けても良さそうな程対応

良かったです。市販のものとは一味違ったのでいいと思います。
・私は現在、特別支援学校に勤務しています。発達年齢に合った教材づくりは難しいところもあるので、今回とても参考になりました。ありがとうございました。
・子どもと一緒に遊んでいただき、楽しい時間を過ごすことができありがとうございました。手作りおもちゃ、心の込もったおもちゃに感動しました。
・昨年も来ました！また来年も来たいです！娘も喜んでました！！
・手作りでこんなにいろんなおもちゃができるなんておどろきました。あたたかくていいですね。
・皆さんの作品がとても上手でびっくりしました。いろいろな発想が素晴らしいです。
・たくさん遊んでいただき子どももとても満足しています。ありがとうございました。例えば地域交流も兼ねて、定期的に開催して頂くなどあればこちらもありがたいです。
・授乳できる所があり良かったです。

「壊れやすそう」「昨年の方が良かった」などの意見も見られたが、アンケートの感想欄は概ね学生を励ます温かい内容であった。「BGMがあると良い」などの意見は次年度より活かして運営を行った。学生たちは、アンケートの集計と同時に温かいコメントに触れ、自分たちの行為・努力が地域の保護者や子どもの喜びに繋がったことを実感した様子である。また、おもちゃ作りや対応への肯定的な内容のコメントは自信に繋がったことと思われる。レポートへの記述からもそのことが窺えた。

Ⅲ．学生のレポートから

最終課題の「とどろき祭を振り返って」からは、【A】のように自分（達）の作ったおもちゃで子ども達が遊んでくれたこと、たくさんの方が退場してくれたことが嬉しかったという感想が多く挙げられていた。冒頭の目的で挙げたように、学生達は「自分の行為が他者に喜ばれる喜び」を感じたようである。また、グループ製作では、意見交換ができた、クラスの他のメンバーと協力し合えた、いつもは話さない人とも自然に話すようになって良かった、などの感想（【D、E】）も見られた。グループ製作で大作を作ったグループでは、「達成感を感じた」という記述も多かった。さらに、自分と子どもとの関わりについて振り返った記述（【G】）もあり、子どもとどのように関係を取り結ぶかについて自分なりに考えながら接していたことも窺える。また、環境構成に関する学び（【C】）、保護者への配慮の視点（【F】）、子どもの遊びを多角的に捉える視点（【H】）などもあり、それぞれの学生が何らかの学びを得たことがわかった。また、【B】に見られるように、子どもと遊んだ喜びからより一層保育者になりたいという動機が強くなったといった記述も見られた。

その他、作ったおもちゃに対する反省点（壊れやすい等）、当日の遊びにおける反省（安全面の配慮等）の記述も見られた。全ての学生が、とどろき祭の「手作りおもちゃの遊び場」に参加できて楽しかった、良かったと記述していたことは大いに励みになった。

皆のおかげで教室が可愛くなっていくのを見ていよいよとどろき祭が始まるのかと期待とワクワクでいっぱいでした。当日は、本当に子どもが来るのかと不安でした。しかし、幼稚園や保育所にチラシなど配ったおかげかたくさんの子ども達が来てくれて嬉しかったです。【A】

子ども達と触れ合ってみて、４時間はあっという間でした！始まる前までは、子どもが来るだろうか、遊んでくれるだろうか、また面倒を見きれるだろうかなど不安でした。しかし、予想とは裏腹にたくさん来てくれたり、作ったおもちゃで遊んでくれてまずは一安心でした。一緒に遊んでいくにつれ、不安要素は消えていき、子どもたちの楽しかった時間があっという間に過ぎていきました。子ども達だけでもなく、保護者達も満足して帰って頂けたと思います。(中略)その中で私は、子どもと触れ合う感覚、接し方などを体験し、子どもの無邪気な笑顔などを見て改めて子どもが好きになったし、学生としてではなく保育者として子ども達と触れ合いたいと実感しました。そのために辛い経験などしていかないといけませんが、辛い時は子どもたちの笑顔を思い出して日々頑張りたいと思います。【B】

先生が私の缶ぽっくりで子ども達が遊びやすいように机の上に置くのではなく、床に置きテープを貼ることでここからこ

こまで歩こうと目標を作ることでどのように遊ぶのかがわかりやすく、興味を持ちやすくなったのだろう。何もせず子ども達が遊んでくれるか心配する前に、自分から子どもたちに遊んでもらえるような環境を作りをするべきであると思った。【C】
作っているとあまり話したことのない子とも話すようになり、友達も増え、次第に一体感が生まれたような気がした。完成したときには充実感と達成感を感じることができて全員で喜び、記念撮影をした。【D】
自分の意見を積極的に言うことが出来たため、良い機会だったと思います。また、意見を聞き、ここが駄目なのではないか、こうしたらいいのではないかと友人と意見を言い合い、共有し合えたことが嬉しかったです。【E】
おもちゃタウン目当てで来ている方も多く、そのことを知りとても嬉しい気持ちになりました。また、授乳やおむつ替えが安心して行える唯一の場所でもありましたので、子ども連れのお母さんには大変便利な場所だったのではないかと思います。【F】
慣れるまではなかなか子どもとうまく接することができなくて自分から距離を置いてしまっていたのですが、一人の子が「遊ぼ」と言ってきてくれたのをきっかけにたくさんの違う子どもと遊べて楽しかったです。自分が子どもと上手く接することができないと思い込んでいるだけであって、深く考えずにただ普通に積極的に自分から話しかけていけば子どもがこっちを見てくれるし話してくれるんだということを改めて実感しました。【G】
子どもの絵はとても面白く表現豊かで感心してしまいました。どうしてその絵をかいたのかもっと質問してみれば良かったです。子どもの視点は面白いです。【H】

Ⅳ. まとめ

４年間継続して「手作りおもちゃの遊び場」開催に向けた実践を行ってきた。その取り組みの中で学生からの反発を受ける場面や依存的な言動等に苦労もしたが、後期に共に一つの目標に向かって作業に取り組む中で親密さが増し、個々の学生とのラポールを築くことができたと実感している。学園祭までの過程で得た教員や仲間とのラポールが後の円滑な学生生活の一助になればと考える。

また、準備の過程の中で筆者自身が机上の授業ではわからない個々の学生の未知の側面を発見することができた。学園祭で、子どもたちと生き生きと楽しそうに遊ぶ学生の様子は、筆者自身の新鮮な発見であり、教員としての今後の励みに繋がっている。

ラポールが馴れ合いにならないようにする、学生の主体性を一層活かせる取組への工夫など課題もあるが、本実践のよって「保育実践への希望」「子どもと遊ぶ喜びの実感」「環境構成やおもちゃの選択眼などへの意識」「人間関係の流動化及びラポールの形成」「子どもを多角的に見る視点の形成」「地域の子どもや保護者との交流」「保護者への配慮の視点の形成」等の成果に繋がっていると考える。

引用・参考文献

１）高山静子　環境構成の理論と実践-保育の専門性に基づいて　エイデル研究所　2014
２）認定NPO法人　日本グッド・トイ委員会編著　東京おもちゃ美術館の挑戦　言視社　2012